

# 2020年度 情報経営イノベーション専門職大学

## 入学者選抜試験 一般入試 A 日程

# 国語

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで開かないこと。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁、乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 解答用紙には解答欄以外に受験番号等の記入欄があるので、監督者の指示に従ってそれぞれ正しく記入すること。
4. 解答は、解答用紙の問題に対応した解答欄にマークすること。
5. 問題冊子は持ち帰らないこと。
6. 試験終了まで退出しないこと。

□ 次の記事を読んで、後の問いに答えなさい。

日本人が平等を好まなくなった、あるいは格差の存在を容認するようになった事実を説明するために、ここでは日本人の心理状況の特色に注目する。すなわち、人びとがどのような心理状態にいたることが、平等を(a)キヒしたり、格差を容認するようになったかを考察するものである。人間の心理という言葉ではなくて、人間の性格という言葉を用いてもよいが、ここでは心理で統一する。

人間の心理において、(1)決定的に重要な特質は「野心」と「嫉妬心」であると私は考えている。人間はまわりにいる人のなかで生きているのであり、それらまわりにいる他人との比較をして自分の位置を自覚して、何がしかの心理的な感情を持つものである。これらの野心と嫉妬心という感情が、人びとの行動を規定する効果大なのである。わかりやすい表現を用いれば、野心は他人よりも高い位置を望む動機であり、嫉妬心は他人よりも低い位置にいたることを妬ましく思う感情である。

たとえば、(2)消費ないし所得という経済変数を考えてみよう。

人びとは他人よりもぜいたくな消費なり高い所得を示すことができる。優越感を持つことができる。優越感を得るために、人びとは野心を持って(b)キンロウに励むとか、いろいろなことで努力をするであろう。このことが経済の活性化に貢献することは間違いない。一方で他人よりも少ない消費なり低い所得しかない人は、劣等感にさいなまれるかもしれないし、他人に嫉妬心を抱く可能性が高い。この嫉妬心がよい方向に働いて、なんとか自分の劣位を挽回ばんかいしようとか何ごとにも努力することは称賛されてよいが、それが逆に悪い方向に働いて、たとえば優位にいる人を落とし入れる行動に出ることは当然のことながら好ましくない。ここで述べたかったことは、もとより野心も嫉妬心も感じない無色透明の人もいるが、人間は多くの場合、野心か嫉妬心を抱くもので、それらが人間に何がしらの行動をうながす動機になるのである。□

平等ないし格差との関係で野心や嫉妬心を考えると、平等社会ないし格差のない社会であれば、人びとが嫉妬心を抱く可能性はかなり低くなる。しかし一部の野心のある人は、自分だけに立とうとする行動を起こす可能性はある。一方で不平等性が高い、すなわち格差のある社会であれば、劣位にいる人は嫉妬心からよからぬ行動を取るかもしれない。よからぬ行動とは、たとえば優位にいる人の持つ資産や権益を奪おうとするかもしれない。それが犯罪行為につながれば、社会不安の元凶となりうる。□

以上をまとめると、人間が大なり小なり保有している野心や嫉妬心は人間の行動の動機になりうるが、それぞれがよい行動をうながすことも

あれば、逆に悪い行動をうながすこともありうる。このことは格差社会のなかにおいても該当することなので、野心や嫉妬心がどういふときにまた、どういふ方向に作用するかを見極める必要がある。

ここでは人間の心理そのものから、格差をどう考えたらよいかを議論しておこう。格差を容認するかしないのか、あるいは格差の存在が人の行動に影響するのであれば、背後に人の心理が作用しているに違いないからである。

(注) 池上知子(二〇一二)は人間社会に格差が存在することを前提にして、Xは相当あるにもかかわらず、遅々としてそれが進まないことに注目している。格差を容認する人びとがかなり存在することの理由を、主として心理学に立脚して解説しているので、それに準拠しながら、格差を発生させ、かつそれを維持させている理由を探求する。

一つの理論として「③社会的支配理論」というのがある。これは人間社会には人びとの心底の思いとして、不平等な支配・被支配関係を願う気持ちがある、とする。それは権威主義と呼んでもよく、弱い自分を強い他人によって守ってもらいたいという希望を、人間が本能としてもっているものと理解する。一方で強くて権威を持っている人も規範や伝統を信奉して、それらが弱い人を服従させる効果があると考えている。すなわち、弱い人も強い人も支配・被支配の関係を容認する、という心理が人間にはあると考える。私の言う野心と嫉妬心に関連づければ、弱者が強者を嫉妬する感情は弱く、強者は野心のまま動いてよいのである。

この「社会的支配理論」は、時折人びとのイデオロギーとして認識されている。このイデオロギーは人びとの発言・行動の起源となる傾向があり、これが階層を固定化するのに役立つ。すなわち共通のイデオロギーが支配集団と被支配集団の双方に共有されるので、階層構造の維持に役立つのである。H

わかりやすく言えば、世の中には強者(高所得者)と弱者(低所得者)が存在するのは事実でありかつ避けられないことであるが、あえてこの両者の格差を是正しようとするれば、人びと、あるいは第三者なり政府はキョウ(c)コウなことをしなければならぬ。それをすればお互いが破壊に至ることもあるので、ここは静かに格差の存在を容認しておいたほうが無難である、との人間の心理構造が働くと考ええる。

もっともここでの解釈には、一つの問題点が残る。それはY、たとえば昔の王制や帝制、封建時代のように、ごく一部の支配階級が巨額の資産・所得や権力を保持する一方で、大多数の被支配階級が貧困に苦しんでいるのなら、被支配階級は体制を崩そうとして反乱を起こすこともありえる。それが現実には市民革命として、庶民が国王や貴族、大地主に抵抗して市民を中心とする社会を作り上げたことは歴史

が物語っている。 17

現代は王制や帝制ではないので、ここで述べたことは重要ではないかもしれないが、格差が大きすぎるのであれば、たとえ民主主義の国であっても政府を打倒する運動は発生しうる。

もう一つ、イデオロギーに関しては、資本主義が発展してから資本家と労働者の階級対立が激しくなり、資本家が労働者を搾取している事実を覆さねばならないとするマルクス経済学思想、あるいは社会主義政治思想が一九世紀と二〇世紀を中心にして強くなった。これは大きな格差を是正するためのイデオロギーと理解してよい。このイデオロギーは暴力革命の容認論にまで発展して、ロシア革命をはじめとして各地での社会主義革命が成功し、政治体制の変った国がいくつかあったことも歴史の知るところである。これらの歴史的事実は、格差の容認を是とするイデオロギーと逆のイデオロギーなので、「社会的支配理論」があれば、たとえば社会主義・共産主義のように「社会的支配打倒理論」という逆の理論も存在するのではないか、という説を提言しておきたい。

いまの日本は、かつて市民革命や社会主義革命が起きたときの時代のように、支配階級と被支配階級の間で極端に大きな格差があるわけではない。とはいえ、変革を望むかどうかの岐点は、人びとが日本の所得や資産の格差をどの程度の深刻さと理解しているかによる。

いわば格差の大きさの程度、あるいは深刻さが、「社会的支配理論」か「社会的支配打倒理論」を支持するかの分岐点でもある。私は日本では革命は起こりえないと考えているが、貧しい人が多くなってきていることにより、(4)その臨界点に近づいているのではと考えている。 18

(橘木俊詔『新しい幸福論』による)

(注) 池上知子 (二〇一二) —— 大阪府立大学教授。教育学専攻。(二〇一二) という数字は、本文で言及されている池上の論文が発

表された年度を表している。

問1

傍線部(a)～(c)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ選びなさい。解答番号は、

(a)

、(b)

、(c)

。

(a) キ|ヒ

- ① 旅行をキ|カクする。
- ② キ|ミヨウな夢をみた。
- ③ キンキ|を犯してしまう。
- ④ 人間のキ|ドアイラク。
- ⑤ ハンキ|をひるがえす。

(b) キン|ロウ

- ① キン|ゾク三十年を超える。
- ② キン|ガ新年のあいさつ。
- ③ ニュウサンキン|が働く。
- ④ ゾウキン|を絞る。
- ⑤ キン|ニクを鍛える。

(c) キョウ|コウ

- ① 急なコウ|バイが続く。
- ② コウ|エイの住宅に引越す。
- ③ キコウ|の変化が激しい。
- ④ 海に面したコウ|ワン都市。
- ⑤ 表情がコウ|チヨクする。

問2 次の文は本文の一部である。どこに入れるのが最も適当か。本文中の  1  2  3  4  5 の中から選びなさい。解答番号は、 4。

「このことは、世の中に存在する格差を消極的にせよ双方が是認することを意味し、社会の秩序・安定に貢献すると考えられている。」

- ①  1      ②  2      ③  3      ④  4      ⑤  5

問3 傍線部(1)「決定的に重要な特質」とあるが、なぜ「決定的に重要」といえるのか。その理由として最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、 5。

- ① 「野心」と「嫉妬心」は、個人の自律性を前提として生じる感情で、当人にとって行動の根拠となるものだから。  
 ② 「野心」と「嫉妬心」は、まわりにいる人を気にせざるをえないという、人間の行動の限界を規定するものだから。  
 ③ 「野心」と「嫉妬心」は、他者と自己を比べた際、他者よりも相対的に高い位置を望む動機になりうるから。  
 ④ 「野心」と「嫉妬心」は、他者との比較を通じて生じる心理状態であり、人間の行動を規定するものだから。  
 ⑤ 「野心」と「嫉妬心」は、まわりの人間と自分を比較し、相手より低い位置にいることを恨む契機となるから。

問4

傍線部(2)「消費ないし所得という経済変数を考えてみよう」とあるが、この例示により筆者はどのようなことを伝えようとしているか。その説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、

6。

① 資本の格差が人間内部に生じさせる野心や嫉妬心は、誰しもが抱くものであり、よくも悪くもそこから人間の行動が引き起こされるということ。

② 消費を促しさらなる経済発展を遂げるためには、野心や嫉妬心が不可欠であり、それらが失われた平等社会においては、経済の活性化を望むことはできないということ。

③ 高所得を維持しようとする野心よりも、劣位を挽回しようとする努力する原動力となる嫉妬心のほうが称賛すべき心理状態であり、その上で劣等感は決して悪いことだけではないということ。

④ 優位にいる人物を引きずりおろそうとする野心的な行動は、犯罪行為につながる可能性もあるためつつしむべきだが、野心や嫉妬心を持たない人間などほとんどいないのだということ。

⑤ 平等社会や格差のない社会を目指す上で野心や嫉妬心を極力抑えることが重要であり、消費や所得といった経済的側面における格差をなくすことがその第一歩につながるのだということ。

問5

本文中の空欄 X に当てはまる内容として最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、

7。

① 格差を積極的に容認する意見

② 平等を否定する逆説的な声

③ 人間存在の固有性を説く意見

④ 人間心理の重要性を訴える声

⑤ 格差是正や平等を願う声

問6 傍線部(3)「社会的支配理論」とあるが、筆者はそれをどのような考え方として解釈しているか。その説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、8。

- ① 社会の規範や伝統を強者が用いることで、弱者が本能的に不平等な支配・被支配関係を望むという考え方。
- ② 権威主義と人間の欲望という相反するものなかで、強者と弱者とが経済格差を生き抜くために選んだ考え方。
- ③ 人間社会において、人間は弱者も強者ともに支配・被支配の関係を肯定的に捉えているという考え方。
- ④ 被支配者である強者が重要視する規範や伝統は弱者を服従させるが、同時に弱者もそれを望んでいるという考え方。
- ⑤ 他者からの支配を望む者は野心があまりないため、不平等な支配・被支配関係が根強く続くという考え方。

問7 本文中の空欄Yに当てはまる内容として最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、9。

- ① 感情の高揚次第で
- ② 格差の程度によっては
- ③ 構造の動揺によって
- ④ 支配者層の多寡次第で
- ⑤ 政治体制の是非いかんで



問8 傍線部④「その臨界点に近づいている」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、10。

- ① 支配階級と被支配階級の格差が激しい現代の日本では、社会的支配打倒理論が支持される可能性が高い。
- ② 日本の社会に暮らす人びとが社会的支配理論を容認するようになる日も、間近まで迫ってきている。
- ③ 日本の将来をより良き方向に導くなら、社会的支配打倒理論をこそ支持すべきである。
- ④ 日本でも起こるかもしれない市民革命や社会主義革命は、暴力革命を容認する危険性を秘めている。
- ⑤ 日本の人びとが社会的支配打倒理論を支持するようになる可能性が高くなりつつある。

問9 本文の内容に合致するものを、次の中から選びなさい。解答番号は、11。

- ① 社会的支配理論というイデオロギーは全世界で共通し、海外ではマルクス経済学思想やロシア革命などの歴史的事実をも生じさせた。
- ② 現代の日本において格差をなくすためには、政府などの支配者に対し弱者が大きな野心を持って行動するよりほかない。
- ③ 日本人の心理状態の特色である社会的支配理論という考え方は、格差を容認する世間の風潮をよくあらわしている。
- ④ 強者と弱者との格差を無理やり是正すれば必ずほころびが生じ、それを避けるために格差を静観しているという心理構造がある。
- ⑤ 民主主義の国において強者である政府が、弱者である国民の経済的格差の広がりを助長している状況は問題視すべきである。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

インターネットは当初のBBS（電子掲示板）というクローズドサイトでの交流から、WWW・ブログといったオープンアクセスの段階を経て、コミュニケーションの場が再び(1)SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）に戻りつつある。

その主因はスマートフォン（以下スマホ）の普及である。いつでも、どこにいても、相手とコミュニケーションできる利便さは従来の固定電話やパソコンを大きく上回り、文字による交流は無論のこと、音声・写真・動画までをスマホひとつで簡単に操作してしまう。文字の読み書きができなくても、スマホさえあれば、**A**に相手と交流できる。史上最強のコミュニケーションを誰もが所有する時代になった。

多くの個人がなんらかの形でSNS上に存在する無数のコミュニティに参加し交流することは多文化共生に寄与する。距離的制限や時間的制限から解放されるSNSでは、現実社会以上に、さまざまな国籍や異なる文化背景をもつひとびとと出会う。それを(a)ケンショウしたのは米イエール大学の心理学者スタンレー・ミルグラム教授によって1967年に行われたスモールワールド実験である。全く知らない相手同士は、間に平均して5名の仲介人がいれば、互いに知り合える、いわゆる「6次の(b)ヘダたり」ということを意味する。SNSのコミュニティで、社会的習慣の違いを互いに説明したり、時間をかけて相手の抱え込んでいる問題点や悩みを理解してアドバイスすることが可能である。

互いに文化的違いを認めあい、対等な関係を築こうとすることは現実社会ではそうたやすいものではないが、SNS上では比較的容易に実現する。性別・年齢・職業等の個人情報明らかにすることも、社会的立場をわきまえて発言することも現実社会ほど厳しく要請されない。発言の**B**を与えない代わりに、対等な立場で自由に発言することが許される。特定のひとと深い関係を築くことも、不特定多数のひとと交流することも選択肢として存在する。いままでの人格（ネット人格）をリセットして新しい自分を演じ、新しい友人関係を一からつくり直すことはSNSなら非現実的ではない。

それに加えて、筆者の80年代の留学時代と違って、今日では日本にいても、母国のニュースや情報を低コストで大量にアクセスできるようになった。所属する研究室の留学生が行ったアンケート調査の結果によると、母国の家族や友人と連絡しあい、母国の音楽やドラマを(c)カンショウし、母国のニュースを視聴するのは大部分の留学生の日課だという。母国のひとびとや母国文化に接する時間は毎日数時間にも及ぶ。このように、多様な文化に手軽にアクセスできるのはインターネットの賜物のひとつである。**A**、インターネットという仮想空間が文化の多様性

に包容的である。

**イ**、多言語生活情報アプリや災害時多言語情報作成・表示アプリが最近多く聞かれるようになった。地域の国際化や多文化共生を推進する政府や地方自治体の努力した成果でもある。自国の情報は容易に入手できるが、ローカル情報は却<sup>かえ</sup>って見つからないという意見は外国の方からしばしば聞かれる。日本語で書かれている情報にアクセスすることは非漢字圏の方にとってインターネット時代でも大きな課題となっている。毎日の生活や災害発生時の生存に直結するローカル情報を多言語で提供することはとても大事で良いことである。

言語の壁を(2)AI(人工知能)の技術によって取り払う研究は盛んに行われている。身近ではアップル社のシリヤマイクロソフト社のコルタナにAIによる音声認識や音声合成のレベルを垣間<sup>かいま</sup>見ることができる。AIが急に注目を集めたのはグーグル社のアルファ碁という碁の対戦ソフトが囲碁棋士を負かしたことによる。とくに2017年5月、中国の人類最強と自称する柯潔<sup>コ・ジェ</sup>九段棋士が3戦連敗し、(注)二人零和<sup>ぜろわ</sup>有限確定完全情報ゲームの世界ではAIに人間が全く勝てなくなったことが事実として決定した。アルファ碁にはディープラーニング(深層学習)という新しい考え方が取り入れられ、各層の優先度を適切に設定して、全体の状況を飛躍的に高速で正確に判断できるようになったのである。その技術が音声認識や自動翻訳にも応用されようとしていて、近い将来、多文化共生における言葉の問題は軽減されると期待する。

**ウ**、文化の多様性や自動翻訳・自動通訳の可能性が高まった反面、コミュニティの分断化という(3)筆者の心配を書いておこう。**エ**、SNSでは気軽にさまざまなコミュニティに参加し、多くのひとと出会えるようになっていくが、現実社会と違って、意見の合わないひととにも仕事したり生活するわけではないので、自分の感性や感情にあり、居心地のよいコミュニティにしか参加しなくなることが考えられる。つまり、コミュニティの棲<sup>す</sup>み分けがSNS全体では傾向として強まる。このような人間関係の分断化が進んでいくと、異なるコミュニティ同士の交流がほとんどなく、交友関係が固定してしまい、多文化ではなく、一コミュニティだけの文化になってしまう。そうなると、他者の異なる意見を許容する心構えはSNS上のコミュニティ全体に求められるだけでなく、それぞれの個人にも必要であろう。多様性を維持していくことは長い目でみればコミュニティ全体の活性化に繋<sup>つな</sup>がるし、自分と異なる文化や価値観の持ち主と交流しないと、その個人の世界観を狭める結果になる。

多文化共生は多くの国や民族に見られるように、大変困難で課題が山積している。共生よりも、現実には異文化の衝突のほうがはるかに多かった。難民の受け入れに難色を示す国が多くなったことや、自国第一主義が台頭してきたことも現実として直視すべき現象である。インターネ

ット時代になって、人間同士のコミュニケーションがより便利で低コストになっているが、真心の交流はかける時間と努力にのみ報われるものかもしれない。

(倪永茂『インターネット時代の多文化共生』による)

(注) 二人零和有限確定完全情報ゲーム——ゲーム理論におけるゲーム分類の一つ。

問1 傍線部(a)と(c)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ選びなさい。解答番号は、(a) 12、(b) 13、(c) 14。

(a) ケンシヨウ

12

- ① 野球の試合でケントウする。
- ② 二つの役職をケンニンする。
- ③ 犯罪者がケンキョされる。
- ④ ケンジャの知に圧倒される。
- ⑤ 日本国ケンポウの精神を守る。

(b) ヘダたり

13

- ① カクヘイキを廃絶する。
- ② 新首相がソカクに着手する。
- ③ 業務をカクチヨウする。
- ④ 機械をエンカクから操作する。
- ⑤ 賞金をカクトクする。

(c) カンシヨウ

14

- ① 浅瀬の海をカクタクする。
- ② 筆跡カンテイに回す。
- ③ カンリヨウの汚職を許さない。
- ④ アツカンの出来を誇る。
- ⑤ カンジヨウ道路を一周する。

問2

空欄

A

B

に入る最も適当な語を、次の中からそれぞれ選びなさい。解答番号は、

A 15、

B 16。

A 15

① 牽強付会けんきょう

② 付和雷同

③ 雲散霧消

④ 神出鬼没

⑤ 自由自在

B 16

① 権威性

② 不易性

③ 恣意性

④ 利己性

⑤ 普遍性

問3

空欄

ア

イ

に入る最も適当な語を、次の中からそれぞれ選びなさい。解答番号は、

ア 17、

イ 18、

ウ 19、

エ 20。

ア 17

① ただし

② だが

③ つまり

④ 一方

⑤ または

イ 18

① よって

② たとえば

③ けれど

④ さて

⑤ かえって

ウ 19

① もちろん

② しかし

③ なお

④ そもそも

⑤ それで

エ 20

① 確かに

② ともかく

③ なぜなら

④ また

⑤ たとえ

問4 傍線部(1)「SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」とあるが、その説明として適当ではないものを、次の中から選びなさい。解答番号は、21。

- ① スマートフォンの普及によってユーザーが増えてきている。
- ② さまざまなコミュニティに参加することで多文化共生にも貢献できる。
- ③ 知らない相手同士が現実世界で対等な関係を築く出発点となる。
- ④ 特定の人間とも不特定多数の人間とも交流することができる。
- ⑤ 新たな自己を演出し、新たな交友関係を構築することができる。

問5 傍線部(2)「AI(人工知能)の技術」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、22。

- ① 各社が開発研究でしのぎを削っており、経済的な効果も期待されている。
- ② 音声認識や自動翻訳という技術が、対戦ゲームの深層学習を生み出した。
- ③ 人間をしのぐ処理能力を持ったことで、人間を疎外することが懸念されている。
- ④ 深層学習の考え方を取り入れることで、部分的情報に特化した判断力が備わった。
- ⑤ 多文化共生におけるコミュニケーションの問題に対し、光明を与えてくれる。

問6 傍線部(3)「筆者の心配」とあるが、なぜ筆者は心配しているのか。その理由として最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、23。

- ① SNSには人間関係を限定してしまうというデメリットもあり、人間の視野を狭めてしまう危険性も無視できないから。
- ② SNSを通じて自分と異なる価値観に出会うことで、アイデンティティが動揺してしまう可能性も否定できないから。
- ③ コミュニティの分断化によって多様な文化が無数に乱立するようになり、收拾がつかなくなる事態も想定されるから。
- ④ 人びとが居心地のよいコミュニティにしか参加しなくなることで、現実社会同様、社会的分断が生じる危険があるから。
- ⑤ 他者の異なる意見を許容するだけの精神的な余裕を、分断されたSNSコミュニティでは持つことができなくなるから。

問7 本文の内容に合致するものを、次の中から選びなさい。解答番号は、24。

- ① インターネットのおかげで留学生が母国語に接する時間が増加する一方で、留学先の国の文化に触れる時間が減っている。
- ② 匿名性の高いSNSなどでの発言は、ときに無責任な暴言につながり、他人を傷つける恐れがあるため十分注意が必要だ。
- ③ SNS上では、現実社会における個人の属性や立場とは無関係に振る舞うことや、新たな人格を演じることが可能になる。
- ④ 異文化間の衝突を解消するために、簡単に利用できる低コストのSNSなどで時間をかけて交流していくべきである。
- ⑤ ローカル情報の発信が政府や地方自治体でしかおこなわれていないので、個人でも積極的に発信していかなければならない。